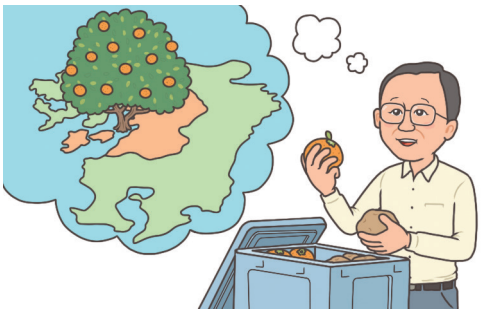
地理院地図と地図帳で産地調べ

●地図研究家　今尾恵介



地形図には「果樹園 ♁」という記号がある。イコール果物がとれる場所と考えそうになるけれど、この記号はあくまで「果樹」になるりんご、みかん、もも、ぶどうなどが対象で、パイナップルやいちご、すいかなどは除外される。具体的には畑またはビニールハウス等の記号（ガスタンクやプラットホームの屋根部分などを表す「無壁舎▧」）の表現だ。

誰にでもわかりやすい果樹園の記号ではあるが、残念ながらそこに何が植えられているかを図から判断することはできない。そこで頼りになるのが令和６年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』（以下、地図帳）である。各地方の図には代表的な作物が小さな絵記号で記載されているから、これと国土地理院が発行する地形図またはその電子版の「地理院地図」を併用すればおよその見当はつく。例えば和歌山県の地形図には多くの果樹園記号が用いられているが、地図帳p.46では有田（ありだ）市に「みかん🍊」、「はっさく🟠」の絵記号が載っているのでそのいずれかだろうし、もう少し南のみなべ町は「うめ🟢」だから梅林が広がっているのだろう。県の北端を流れる紀の川を東へ遡った橋本市なら「かき🟤」である。

私はある生協に加入していて、配達日になると届けられた箱からいろいろな品物を取り出して収納している。子どもの頃から菓子や農産物の生産地を確認するのがくせになっているが、いつも注文している熊本県上天草市の大矢野（おおやの）みかん、北海道津別（つべつ）町や蘭越（らんこし）町のたまねぎとじゃがいも、秋田県大仙市南外（なんがい）の「あきたこまち」の精米、茨城県石岡市八郷（やさと）地区のかぼちゃなどなど、全国から届く農産物のおかげで日々暮らしている。

具体的な地名とともに、ものによっては生産者夫妻の似顔絵が添えられていたりするので身近に感じてしまう。だからそれらの地域で大きな自然災害があれば彼らの畑が無事だったかと心配もするし、「猛暑のため欠品」といった紙切れが入っていれば、無念の欠品の重さにも思いを致すことができるし、肥料や飼料の高騰でやむなく値上げしますというメッセージでもあれば、「それなら安い外国産を買えば？」などと薄情な思考には至らない。

「地理院地図」には左上に検索窓があって、そこに地名を入れて検索すれば地図に青い旗が立つので一目瞭然だ。私のように地名に興味を持っている場合、例えば「谷地」のつく地名がどのように分布しているかは一瞬で調べられる。「ヤチ」はアイヌ語で「泥」を意味することから低湿地につくことの多い地名であるが、具体的な分布域は東北地方全般だ。ところが青森県の津軽地方だけは「谷地」ではなく「萢」という珍しい字が用いられていて、これをヤチと読ませることがわかる。

そのあたりは専門家でも大いに活用できるのだが、意外な活用法が魚介類の養殖場だ。地形図はそもそも陸上を中心に表現した地図ではあるが、湾内に養殖いかだが並んでいる場所では、破線で示す「特定地区界----」の記号で水面の一部を囲み、「はまち養殖場」「かき養殖場」のように記されている。もちろんすべての養殖場を網羅しているわけではないだろうが、個別具体的な場所でどのような魚介類が養殖されているかがわかるのが強みだ。

「養殖場」で検索して青い旗がびっしり立つ地域は特に養殖漁業が盛んなところで、とりわけ目立

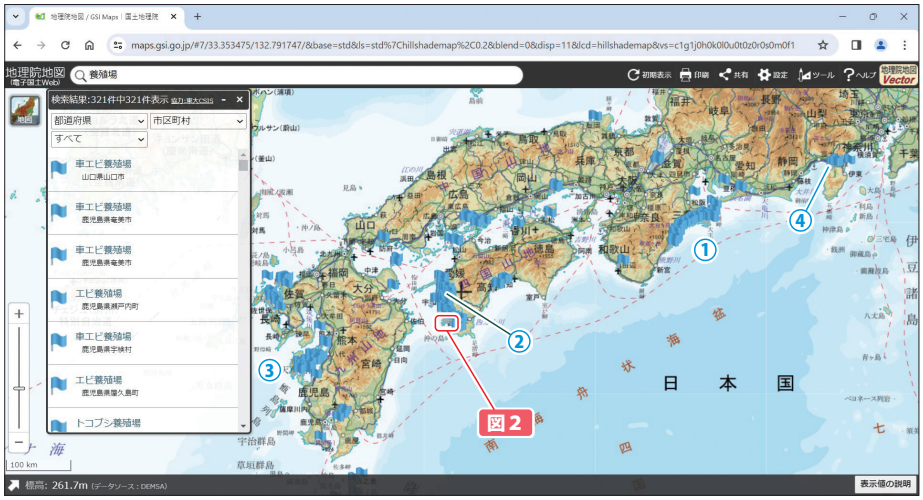


図1 **地理院地図「養殖場」の検索結果（西日本）** 青い旗が立っているところが養殖場。
（国土地理院ウェブサイトより）

「地理院地図」

国土地理院では、紙の地形図に加えて、「地理院地図（電子国土Web）」というウェブサイトでデジタルの地図や空中写真などを公開しています。

地理院地図は
こちらから

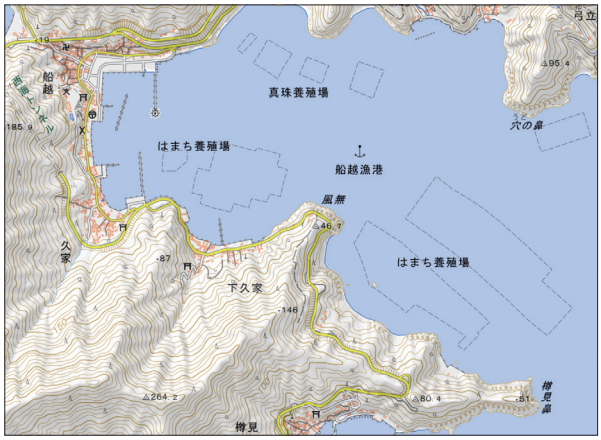


図2 **地理院地図「養殖場」の検索結果（愛媛県愛南町船越）** 真珠とはまちの養殖場（国土地理院ウェブサイトより）

図3 **地図帳でみる愛媛県南西部** 図２の範囲の近くには、はまちの絵記号がある。他に真珠とたいの絵記号もある。
（令和６年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.41）

つのは三重県の熊野灘沿岸①、愛媛県南西側の豊後水道に面した地域②、それに熊本県の天草③である（図1）。このうち三重県は志摩半島寄りに「真珠」が多く、その他は たい、はまちであり、愛媛県も同じく真珠、たい、はまち（図2）。両者に共通しているのはリアス海岸で波静かな入江が多いことだ。熊本県の天草もたい、はまちが多いが、どちらかといえば はまち優位で、ふぐ、えびの養殖場もある。瀬戸内海にも「養殖場」は点在していて、こちらに目立つのは「かき」。

単に「養殖場」と表示された場所もあり、その中で最も多いのが静岡県沼津市の内浦湾を中心としたエリア④だ。こちらは日本最大級の養殖「まあじ」の産地で、このあたりの海沿いを訪れるとあじの干物を売る店が並んでいる。現地で食べる干物定食はまさに絶品だ。地図帳には漁業資源にも多くの種類の絵記号が用いられていて、見ているだけで楽しい（図3）が、これと「地理院地図」の養殖場を見比べつつ、地元の農協・漁協などのウェブサイトなども検索しながら全国各地の名産を調べるのは実に興味深い。この原稿を書きながら、琵琶湖や霞ケ浦のような淡水湖でも真珠（淡水パール）を養殖していることを初めて知った。日本の広さと多様性を改めて知らされた思いである。

（いまお　けいすけ）/1959年生まれ。
出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に「地図帳の深読み」シリーズ（帝国書院）など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。